九重山の火山活動解説資料（平成 20 年２月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
平成 19 年 12 月１日に噴火予報（噴火警戒レベル１、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ ２月の活動概況

・噴煙活動（図２）

噴煙は白色、ごく少量で高さは概ね 300mで推移し、変化はありませんでした。

・地震、微動活動（図２、図４）

火山性地震の月回数は 16 回と少なく、静穏に経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動（図３）

GPS 連続観測では、長者原－坊ガツル及び長者原－牧ノ戸峠の基線長に、1995 年から 1996 年にかけての噴火後の火山ガスの放出に伴うと考えられる、長期的な縮みの傾向が見られます。

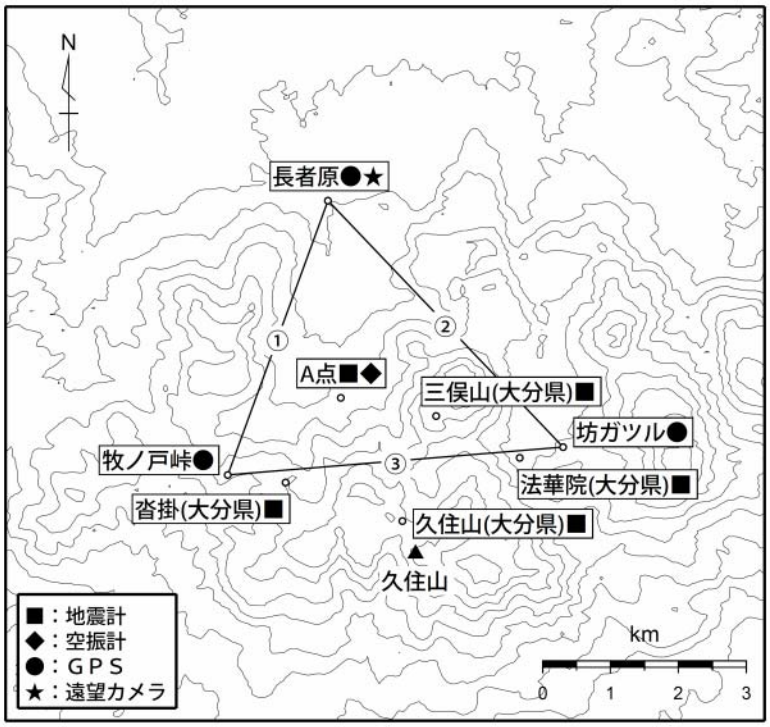

図１　九重山　観測点配置図

※この資料作成に当たっては、気象庁のデータの他、防災科学技術研究所、大分県のデータを使用しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の「数値地図 50m メッシュ（標高）」を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

この火山活動解説資料は、気象庁ホームページ(http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html)、福岡管区気象台ホームページ(http://www.fukuoka-jma.go.jp/)でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料(平成 20 年３月分)は平成 20 年４月９日に発表予定です。

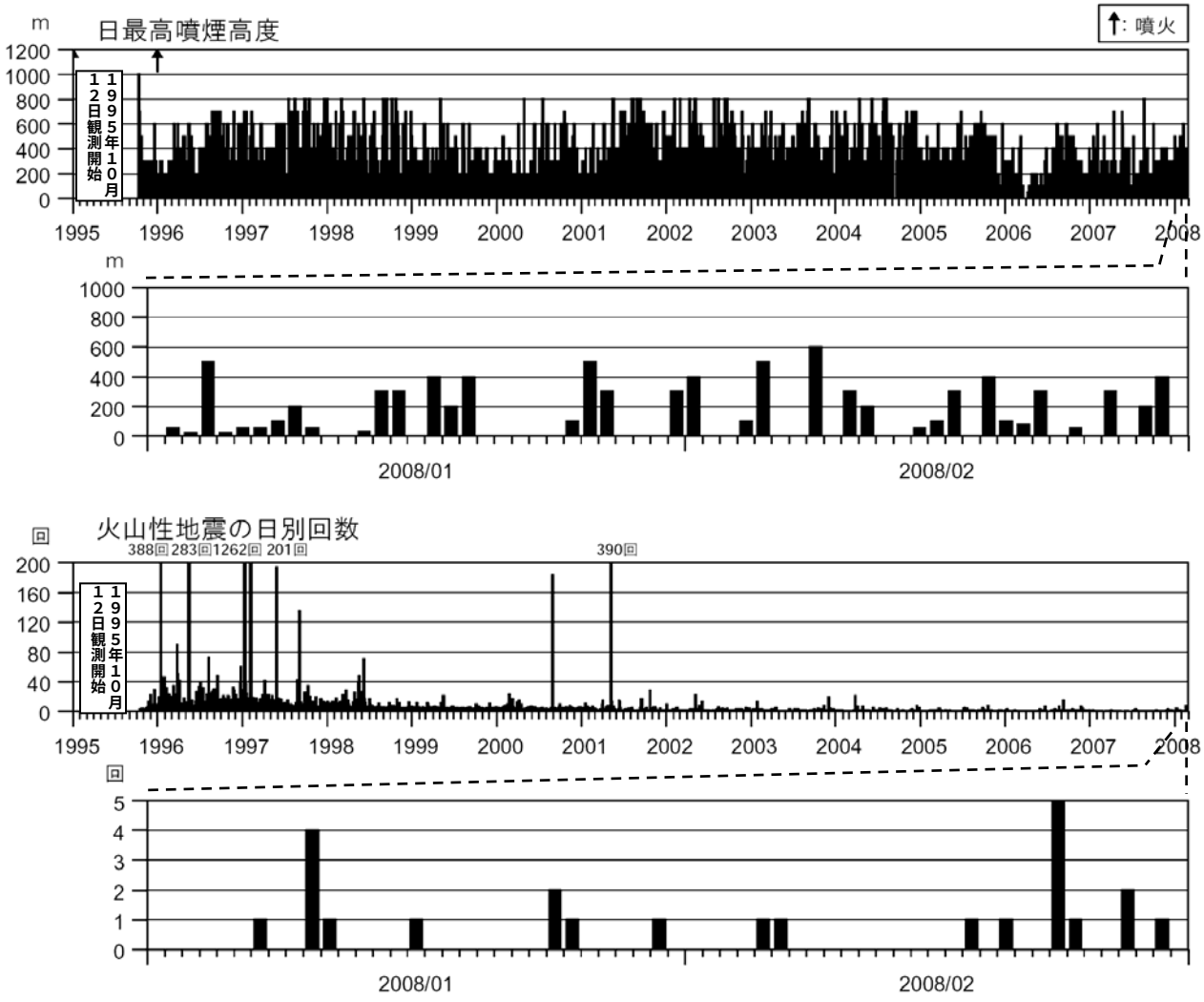

図２　九重山　火山活動経過図(1995 年 10 月 12 日～2008 年２月 29 日)

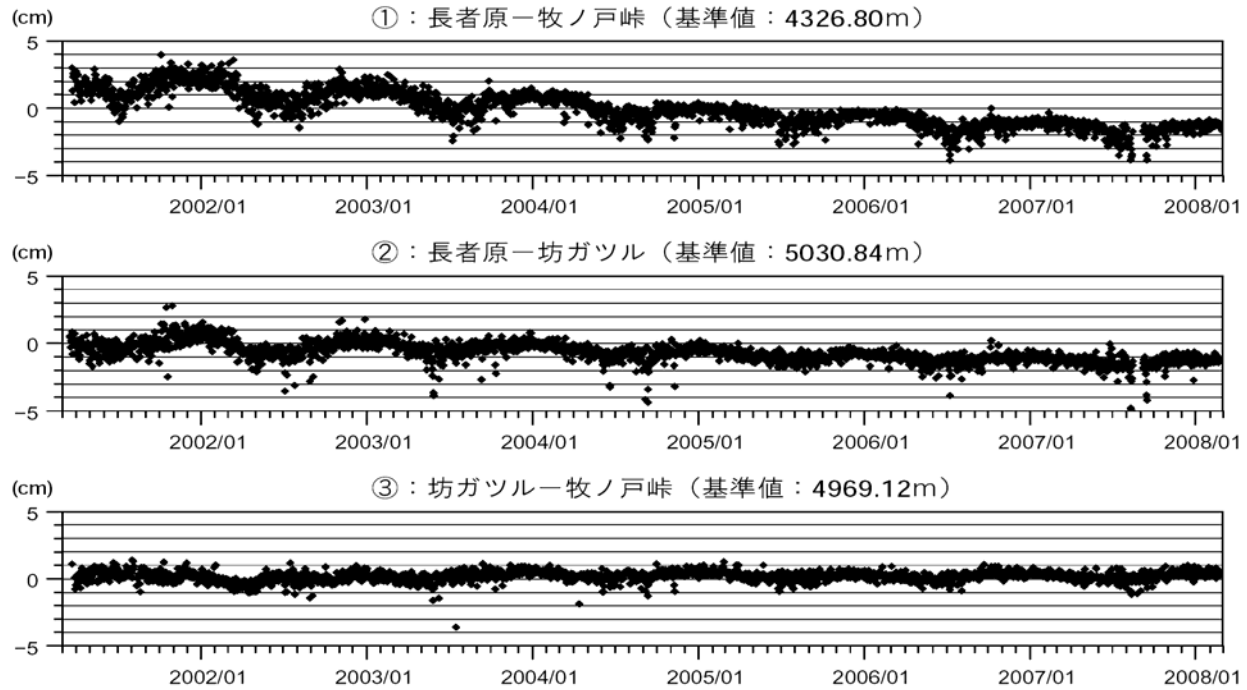

図３　九重山　GPS 連続観測による基線長変化(2001 年３月１日～2008 年２月 29 日)

GPS による連続観測では、長者原―坊ガツル及び長者原―牧ノ戸峠の基線長に、1995 年から 1996 年にかけての噴火後の火山ガスの放出に伴うと考えられる長期的な縮みの傾向が見られます。

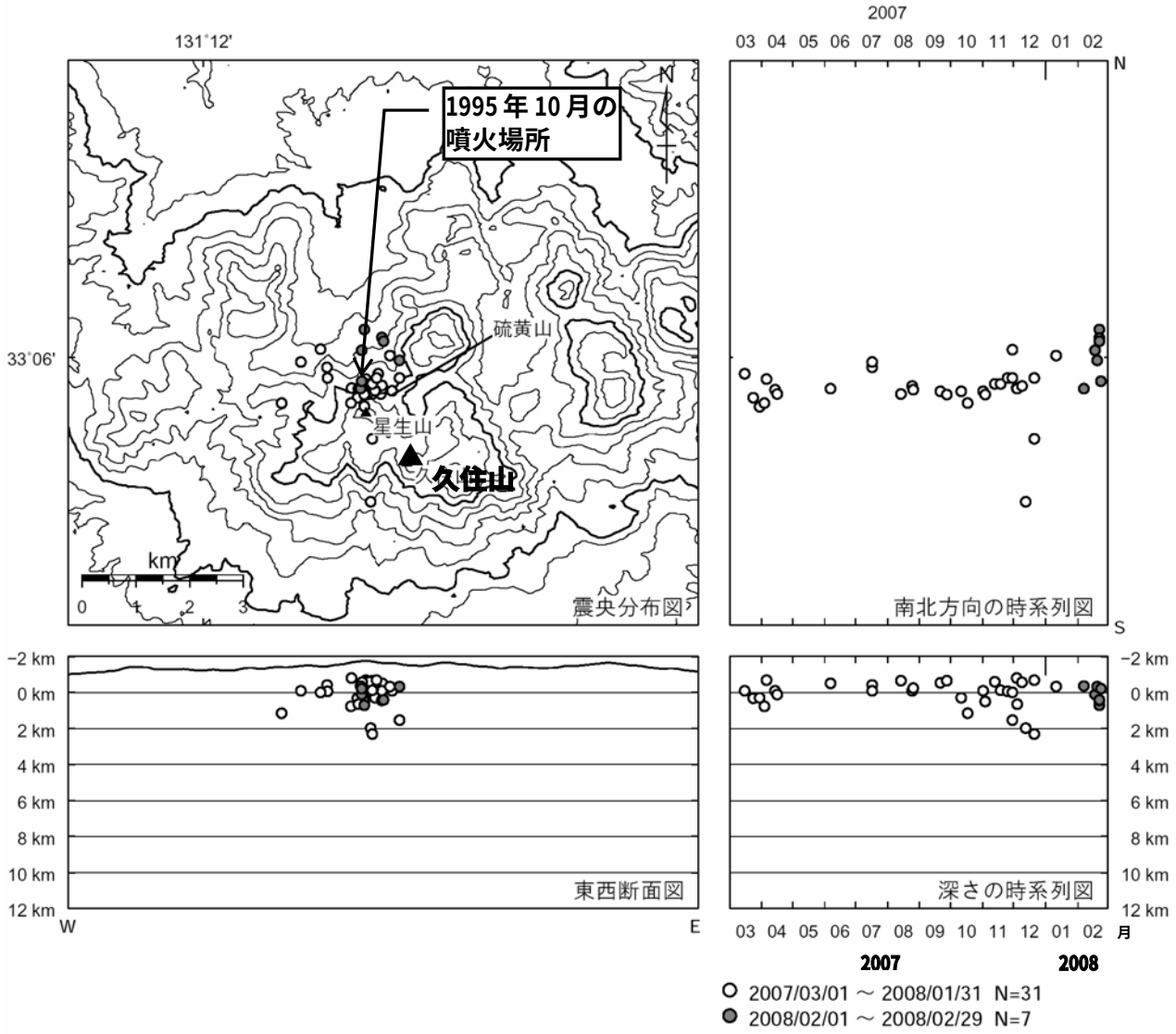

図４※　九重山　震源分布図(2007 年３月～2008 年２月)
2008 年２月は山体付近の浅い所に７個震源が決まりました。